

【6】基地機能の拡大に歯止めをかけることについて

（1）英空母等の横須賀入港について

英海軍空母クイーン・エリザベスが9月4日から8日まで、その後もオランダ海軍フリゲート艦など空母打撃群の横須賀基地入港が続いています。

英国軍艦の横須賀入港を許すことは、米軍が他国との紛争のために横須賀基地を自由に使用するという事態に道を開きます。この間、5隻の米ミサイル駆逐艦が更新され、英空母打撃軍まで入港する事態は、明確に基地機能強化が狙われていると言わねばなりません。

他国の軍隊が出入りする拠点化が進めば攻撃の対象になる危険度は増し、多国籍軍の対中国包囲網の形成は、日本が紛争に巻き込まれる**危険性**を孕みます。

そこで知事に伺います。米軍以外の軍艦が横須賀基地を利用することは、基地機能の強化と他国への出撃拠点化につながりますが、知事はどのように認識しているのか伺います。また、知事はこれらの事態に反対し、国と米軍に抗議すべきです。見解を伺います。

【黒岩知事】



（2）オスプレイの厚木基地整備拠点化について

米軍は、オスプレイの定期整備を行う企業として、陸上自衛隊木更津駐屯地におけるスバルと厚木基地隣接の日本飛行機厚木工場を選定したことを発表しました。契約期間は2021年7月1日から2030年12月31日となっています。

オスプレイは突出して事故率が高く、1991年以降14回事故を起こし、死亡者41名・行方不明者1名・負傷者14名を出した危険な航空機です。

さらに危険度が大きいのが、整備の最終段階、工場外で行われるホバリングテストや試験飛行です。厚木基地の場合、住宅密集地上空を飛ばなければ東京湾にも相模湾にも出られず、危険な段階の試験飛行を住宅地上空で繰り返すこととなります。

「艦隊即応整備センター・西太平洋」は米本国以外では唯一厚木基地に司令部を置いており、インド・太平洋地域における米軍の即応体制を維持・強化する役割も担うことが懸念されます。このような整備拠点化は、それ自体の問題とともに、オスプレイの飛来を激化させ、住民をさらに危険な状態に巻き込みます。

そこで知事に伺います。オスプレイの最も危険な試験飛行を住宅地上空で行わせないために、住民の安全を守る神奈川県知事として、厚木基地をオスプレイの整備拠点とすることをやめさせるよう国に求めるべきです。見解を伺います。

【黒岩知事】